

平成26年度第1回秋田県入札制度適正化推進委員会の概要について

1 日時

平成26年7月16日（水）10:00～11:30

2 場所

ルポールみずほ

3 出席者

菅原佳典委員長、千葉一明委員、相馬智子委員、家入昭彦委員、小西知子委員

4 審議事項

【抽出案件（秋田地域振興局農林部：一ノ目潟地区ため池等整備（用排水）工事）】

委員：入札参加予定業者を10者想定していて1者のみの参加となったが、1者はあまりにも少ないのではないかと。

秋田：工事現場が山奥で、特殊な工事であるため業者が敬遠したのではないかとと思われる。

委員：予定価格を事前公表していて参加者が少なければ、落札率も高くなるものと思われるが、どうか。

事務局：昨年から入札不調・不落の発生が多くなり、業者が入札参加する工事を選別する傾向が進んでいる中で、当該工事は難工事で山奥の工事にもかかわらず1者の参加があり、我々としては予定価格の範囲内においての工事発注という最低条件はクリアできたと考えている。

委員：今後、全国的に技術者が不足していくと思われるが、技術者育成について建設業界で取り組んでいるという情報はあるか。

事務局：建設業界全体として技術者は不足しており、特に50代未満の技術者は少ないという現状である。若年者の入職促進とベテランから若手へのノウハウの継承が課題となっており、そのために賃金面の向上に加え、休暇等の福利厚生面の向上が不可欠との考えに基づき、建設業界・国・県を挙げて取り組んでいる。

委員：以前施工した2号トンネルの受注者は当該工事の契約業者と同一か。

秋田：以前の入札の際は2者応札があったが、契約者は同一の業者である。

委員：今回の契約業者と同一の業者が別の工事では低い価格で入札しており、「実行予算に見合う高めの落札額を設定したと推測される」という説明は納得できる。

【抽出案件（由利地域振興局農林部：金浦漁港地域水産物供給基盤整備工事）】

委員：当該工事では落札額が予定価格からかなり低くなっているが、3者の競争となったことが影響しているのか。落札額が低くなっていることの考えられる理由は。

由利：最も低い金額で入札した業者の入札価格は低入札調査基準価格を下回っており、落札業者を含めた他の2者も金額的には拮抗している。

入札参加対象地域が全県であることから、全県から参加者が集まったことにより競争性が上がったと推測される。

委員：総合評価の評価項目で、主任技術者の保有資格の点数が参加者すべて0点となっている。求めた資格はコンクリート主任技士か。

由利：当該工事はコンクリートの消波ブロックの製作であるため、コンクリート主任技士又はコンクリート技士の有資格者の評価項目を設定したが、参加者すべてコンクリート主任技士又はコンクリート技士での申込はなかった。

委員：総合評価項目に追加した方が良い項目が他にないか。

事務局：当該工事は総合評価の簡易型であり、1件毎に評価項目をカスタマイズしているものではなく、事前に技術専門部会においてご意見いただいてセット済みの標準的な評価項目を採用している。

委員：当該工事の契約者は地元業者で他の2者は管外の業者であったが、契約にあたっては地元優先であったか。

由利：設定された総合評価項目により、総合評価点が高い業者を契約者としたものであるが、結果的に地元業者の受注となった。

委員：総合評定値の点数の設定は決められているのか。

事務局：特定建設工事共同企業体運用基準により、共同企業体の代表者の要件として設定すべき工事が定められている。

委員：単独業者への発注の場合も総合評定値の点数の設定はあるのか。

事務局：複雑な構造の橋梁製作工事等の会社の技術力を求める工事については、単独発注の場合も設定する場合があるが、予定価格が高額の工事は共同企業体に対する発注となるため、事例としては少ない。

【抽出案件（秋田港湾事務所：秋田港国際コンテナターミナル整備工事）】

委員：当該工事の落札率は86.5%と低くなっている。入札参加者が多いから低くなったのか。

事務所：秋田市周辺の工事については入札参加者が多いことに加え、発注時期も25年度発注工事と26年度発注工事の間の工事が少ない時期であったこともあり、入札参加者が受注すべく努力したと推測される。

委員：当該工事の出来形はどのように確認するのか。

事務所：土砂撤去後の地面高が事前に設定した計画高に一致しているかどうか確認する。

委員：入札結果公表様式の「入札参加要件等の状況欄」に経営事項審査点数の項目があるが、落札決定に影響するのか。

事務局：入札参加要件で経営事項審査点数を求めている場合は、設定されている経営事項審査点数以上の点数が必要となる。